

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600542
法人名	有限会社 添田商産
事業所名	グループホームかがやき
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡川崎町大字川崎112 (電話) 0947 - 72 - 7950

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月24日	評価確定日	12月13日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		900円(1ヶ月25,000円)		

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	8名	
要介護1	2名	要介護2	2名	2名	
要介護3	2名	要介護4	2名	2名	
要介護5	0名	要支援2	0名	0名	
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川病院 / 川崎町立病院 / 田中整形外科 / 井手口歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームかがやき」は、昔ながらの成熟した住宅地に位置しており、周囲は四季折々の季節を感じることでできる、少し高台の見晴らしの良い場所に建てられている。ホームの中は全てバリアフリーになっており、廊下・居間ともに十分な広さがとられており、明るく開放的な感じがする造りになっている。ベランダには入居者の作った干し柿が吊してあり、漬物用の白菜も干している。入居者の特技や生活力を活かし、毎日の暮らしを楽しむ取り組みがある。入居者や職員も近くの人が多く、散歩の途中に知り合いの家に立ち寄り交流があり、地域の方々のグループホームに対する理解もあり、地域密着型サービスとして、地域とグループホームの良好な関係づくりができています。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価は「外出の機会を増やす」という課題が指摘された。評価結果を受けて、改善に向けて毎日の散歩や毎月の行事の中に外出する機会を多く取り入れている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の課題の解決に向けて全職員で取り組み成果を上げている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議には、管理者・ケアマネジャー・地域の代表者・PTAの会長・入居者・家族などの参加があり、サービスの実際や取り組み状況・行事などの報告や話し合いを行い、参加メンバーからの意見や要望を聞き、それらをサービスの質の向上に活かしている。会議には多くの家族の参加がある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に「苦情箱」を設け、意見・苦情などを書いてもらうように取り組んでいるが利用はなく、家族から管理者・職員に直接意見や要望を話していただくことが多い。意見や要望は、基本的に早急に対応している。家族会もあり、そこでの意見も運営に反映するように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会・老人会に加入しており、回覧板も回ってくる。地域の行事には職員・入居者共に積極的に参加している。グループホームの行事にも地域の人たちの参加がある。1週間に1回開いている料理教室にも地域の方の参加があり、グループホームに対する理解や協力が得られ、地域との良好な関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の皆さんと明るく楽しく助け合い、今日も1日かがやく」という事業所独自の理念をつくっており、理念にそって地域との関係を構築しており、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は食堂に大きく掲げられており、管理者・職員・入居者も一緒に毎日唱和し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会に加入しているので回覧板も回ってくる。地域の行事には職員・入居者共に積極的に参加している。グループホームの行事にも地域の人たちの参加がある。1週間に1回開いている料理教室にも地域の方の参加があり、グループホームに対する理解や協力が得られ、地域との良好な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解し、昨年度の評価の結果の改善項目にも取り組み実践している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や取り組み状況・行事などの報告や話し合いを行い、参加メンバーからの意見や要望を聞き、それをサービスの質の向上に活かしている。会議には多くの家族の参加がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者の窓口にご相談に行き、サービスの質の向上に努めている。管理者が所属しているクラブやボランティア活動などを通じて町の情報を知る機会もあり、情報交換など積極的に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については研修を受け全職員に周知徹底している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況は「かがやき通信」を2ヶ月に1回家族に送付している。家族の面会もよくあるので面会に来られた際には現状報告を必ず行っている。今年は夏の野外での行事に家族全員の参加があった。金銭管理は原則的にしていないので、入居者に不足の物がある場合は面会時に持って来ていただいている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「苦情箱」を設け、意見・苦情などを書いてもらうように取り組んでいるが利用はなく、家族から管理者・職員に直接意見や要望を話していただくことが多い。意見や要望は、基本的に早急に対応している。家族会もあり、そこでの意見も運営に反映するように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は今のところはない。職員も地域の人が多いため、入居者にとってはなじみやすい環境となっている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除していない。職員が目標を持ち、生きがいを持って働けるような配慮を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を配慮し、常に敬いの気持ちで介助するように取り組んでいる。川崎町や地域が行う同和教育にも参加し、職員にも周知徹底し啓発活動に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	積極的に研修に参加している。法人内外の研修にも参加し、特に資格取得を支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	他の施設の見学に行ったり、勉強会などを開催し交流する機会をつくっている。相互のグループホームの訪問活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	最初は見学を行い、その後、体験入所・入居という段階をふみ、グループホームに徐々になじんでいただけるように工夫し支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の昔ながらの習慣を活かし、干し柿作りや梅干漬け・らっきょ漬けなど暮らしの中に取り入れ、入居者に職員が学ぶなど、お互いに支え合う関係づくりができています。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	一人ひとりの情報はよく取れており、全体像の把握もできている。介護計画は筋力の低下予防になっていることが多い。		その人らしい生を支えるために、「何が安心で何が不快なのか」、また、入居者が「暮らしの中で発揮する力」や「本人にとっての安全や穏やかさ」「なじみの暮らしとは何か」、「本人の願いや支援してほしいことは何か」など、具体的なケアを行う情報収集に期待したい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	情報はよく取れて介護計画もよく考えて立てられているが、「その人らしく安心して暮らしていく」ために本人の“その人らしさ”や“力の発揮”、“安心”などを支える上で、本人が生きてきた歴史(生育歴)やこれまでの暮らしのなかで長年なじんできた「習慣や好み」にそった暮らし(生活歴)を支援していくことが求められる。それらを背景とした入居者一人ひとりの思いや暮らしの把握を更に日々探り続けることが望まれる。		日々の入居者の細かい行動や発言などを記録に残し、カンファレンスすることで、入居者の求めているものを探ることができる。これまでのなじんできた暮らしを思い起こしてもらい、「本人の求めていること」を探り、介護計画の中で「自分らしい生活が送れる」ように支援していくことが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に期間に応じて見直しを行っている。状態変化が生じた場合は、関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者・家族の状況に応じて、病院受診時の送迎など柔軟かつ臨機応変な対応を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の同意を得た上で、協力医療機関に受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	終末期は病院でと考えている。医師とも相談しているが、最終的には本人と家族の意向にそって考えている。現在のところ、まだ検討中である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	言葉使いや言動などは注意を払い、プライバシーを損ねるような行為・言動に配慮している。記録の保管は職員しか出入りしない部屋に人の目に触れないように保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的には1日の流れはあるが、本人のペースを大切に臨機応変に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一人ひとりの嗜好の好みを把握し、入居者に合わせた食事を提供している。食事の準備や後片づけのできる人は職員と一緒にいる。近所の方が一人毎日ボランティアで食事作りの手伝いに来てくれている。職員・入居者で食卓を囲み、楽しく食事をすることができている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日入浴できるようにしている。入居者の希望により1日おきに入浴している人もおり、入居者の希望にそった支援を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎日の生活の中で、入居者の今までの生活力を活かした役割や楽しみごとを重視し支援を行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日の散歩はもちろんのこと、毎月の行事の中にも戸外に出かけられるような計画を立て、できるだけ出かけるように支援している。グループホームの近くに住まわっていた方もおり、散歩の途中で知人宅に立ち寄りなど、これまでの関係を継続できるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関は日中は鍵をかけていない。鍵をかけることの弊害は全職員が理解している。入居者が一人で出て行くことはない。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練は1年に2回行っている。夜間も想定して行っている。すぐ近くに消防署もあり、職員は全員消火器の使い方も練習している。また、地域の人々との協力が得られている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	バランスの取れた献立が考えられている。一人ひとりの状態に応じ、キザミ食にしたり全量摂取できるように工夫している。水分量も1日の摂取する量を決めており、水分チェック表に記録している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有の空間は広いスペースが取っており、全体的に大変明るく、不快な音や光もなく、廊下も広く取られている。入居者は雨の日は、広い廊下を散歩するなど、廊下を活用している。食堂も広くとられ、生活感があり、家庭的な環境づくりに努めている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には備えつけのベッドと小さな筆筒が備えつけてある。入居者の使い慣れた好みの物や自分が作った作品などが飾っており、入居者の個性を活かした空間づくりを支援している。また、ベッドを利用する方や布団を利用する人もおり、各人の好みに合わせて入居者が居心地よく過ごせるように努めている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			